

日本人のみた外国 -- アラブ世界で出会う「日本神話」 (カルチャー・ショック)

著者	高橋 理枝
権利	Copyrights 日本貿易振興機構 (ジェトロ) アジア経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	アジ研ワールド・トレンド
巻	163
発行年	2009-04
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	http://hdl.handle.net/2344/00004783

アラブ世界で出会う「日本神話」

高橋理枝

日本人はアラブ世界を千把一絡げに「石油、砂漠、ヴェール」とイメージしがちだ。中東にも緑豊かな地域があることや、ヴェールを被らない女性も多数いることはほとんど知られていない。同様に、多くのアラブ人にとっても日本は遠い。日本と中国、韓国はだいたい一緒くたで、日本では一人しか子供を持ってないとか、ジャッキー・チェンは日本人だと思っている人もいる。唯一日本を区別するのがテクノロジード。ニセ日本製品が氾濫している中東で、国籍を尋ねられた際に「日本人」と答えると、「おお、本物のメイド・イン・ジャパンだな！」と喜ばれ、それに続いて日本製品賛美を聞かされる。中国人や韓国人にはなんと言うのか、未だに聞くチャンスがないのが残念だ。

今回は、そんなアラブ世界で出会う「日本神話」をいくつか紹介しよう。

①日本には信号が一つもない
これは中東にいる日本人たちが繰り返し否定し続けているのだが、なかなか消えない「神話」である。それによると、テクノロジが高度に発達した日本では、全ての道路が立体交差していて、信号が一つもないそうだ。東京の立体交差を見た誰かが持

ち帰った話なのかもしれない。田舎では立体交差の道路はほとんどないし、都会でも信号は普通にある、と私が説明しても、なぜか信じてもらえない。確かに、免震装置をつけたビルの話なども彼らにとってはウソのようなホントの話なので、信号が一つもないという話も信じたくなるのかもしれない。

②おにぎりを食べると死なない
最近では中東でも健康食品として日本食への関心が高まりつつあり、特に緑茶は人気だ（甘い紅茶の大好きな彼らは緑茶にも砂糖を入れる！）。この「日本食は健康」神話を曲解したのか、ある老婦人はおにぎりを食べると健康になって死なない、と私に力説してくれた（私の言葉には耳を貸さない）。「不死身になるおにぎり」の作り方を聞かれたので、「梅干しがないと無理」とあきらめてもらった。

③日本女性は夫に従順で尽くす
これは一五年ほど前にアラブ世界でも放送されて大人気だった「おしん」の影響かもしれない。私は、日本女性は夫の足を洗ってあげるんだろ？と言われる度に、その間の一〇〇年前の話だよ、と笑い飛ばすのだが、日本は近代化を達成しながらも、東洋の伝統と文化を保持している希少な国と考

えられている。

そのため日本女性はアラブ男性に大人気で、プロポーズされたり結婚相手の紹介を頼まれたりは、日常茶飯事だ。ある日、古本屋で客の一人（アラブ文学についての著書もある知識人）が、冗談めかして私に結婚相手の紹介を頼んで出て行った後、私と店主は顔を見合わせて苦笑いした。以前、六〇年代のアラブ人の旅行記で、夫にかしづく妻が登場する極端にオリエンタリスティックな日本像を見つけて、日本人の知己の多い店主と私は、嘆きつつも大笑いしたからだ。

まあ結婚してみれば神話のウソに気づくだろうが、もしかすると「メンド・イン・チャイナ」のニセ日本女性ではないかと疑われるかもしれない。

おもしろいことに、私がいくら説明しても、なぜか彼らは「神話」の方を信じたがる。不満そうに押し黙るか、時には反論してくる（！）のだ。まあ日本にある「アラブ神話」も相当なものなので、「おあいこ」なのだが、いやはや「神話」は可笑しくもオソロシイものである。

（たかはし りえ／アジア経済研究所 研究企画部）